2014.10.3
第155号

発行
福島県市町村教育委員会連絡協議会
会津支会
北会麻支会
耶沼支会
両

編集
福島県教育庁会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

「慣れ」（マンネリ）からの脱却!!

会津教育事務所
業務次長　神田順一

気温三十度以下だと涼しいと感じたり、震度四の地震で驚かなくなったり、多くの方が被害を受けた局地的な豪雨や竜巻も、どこででも起こる現象だと思ったりするようになったのは、いつからだろうか。地震は、間違いなく東日本大震災以降である。そのほかについては、つい最近になってからのことだと思う。

一学級の人数についても、同じである。所長(管理)訪問等で授業を参観した際に、三十人以上の学級だと「多い」と思うようになった。同年代までのみなさんだと頷いてもらえると思うが、かつて、四十五人在籍している学級を担任したことがあるというのにである。

『慣れ』というのは、本当に恐ろしいものである。異常だと思うことも、続けて体験、経験すると、普通のこと、当たり前のことになってしまう。学級の人数を例に挙げたが、各市町村教育委員会や学校でも、慣れっこになって、変だと思わなくなっていることが少なくないような気がしてならない。感性の鈍い私が感じるぐらいなので、同じような危惧を感じている方も多いのではないだろうか。

八月の下旬に、研修で来所した大学生へ、域内の教育の現状や課題の概要について話をする機会があった。学力の向上、体力・運動能力の低下や肥満傾向の増加、特別支援教育の充実などについて、限られた時間ではあったが、担当の指導主事からも説明させてもらった。授業の重要性を説く説明に真剣に耳を傾け、ＯＥＣＤの調査で注目を集めた「世界一忙しい中学校教員」等の今日的な課題も話題として取り上げることができた。今回の研修は、事務所にもある『慣れ』を改めて見直す新鮮で、有意義な時間になった。

機会は、どこにでもある。毎日、頭も体もフル回転させている学校現場のみなさんに遅れを取らないように、鈍感になっている自分を戒め、心身を研ぎ澄ませておきたいと思うこの頃である。

一学期の反省を生かして

前期所長（管理）訪問や各種会議・研修会等を通じ、各学校が自校の課題を的確に捉え、学力向上や事故・不祥事防止などに具体的に取り組んでいる様子が窺えました。校長先生の経営ビジョンが明確に示され、具現に向け、全職員が各分掌を主体的に推進するという、組織を生かしたつながりのある経営がなされている学校は、特に成果が現れていました。全職員が一体となった取組が、風通しのよい職場（組織）をつくり、生き生きと活動する児童生徒の姿につながっているようです。

また、確実な学力向上や児童生徒支援の充実のため、目標数値や検証方法をより具体化し、共通実践している学校も多く見られました。今後も、少人数学級や少人数指導等のよさを生かすとともに、各加配教員等の有効活用を図り、学習、生活両面にわたりきめ細かな指導を行ってほしいと思います。

事故や不祥事防止についても、服務倫理推進員の積極的な活用や外部者の参加など、校内服務倫理委員会の運営を一層工夫する取組が増え、根絶に向けて強化が図られていました。

しかし、春先から速度超過や交通加害事故（追突）、情報媒体の紛失等の不祥事が相次いで発生しました。また、ＬＩＮＥによるいじめやトラブル等、学校が把握しにくい深刻な問題も増えています。組織の力で個々の教職員の危機管理意識を高めたり、新たな問題事案についての研修を深めたりするなど、「想定外」の事態をつくらぬ取組を強化する必要があります。

各学校おかれましては、一学期の反省点と現状を再点検し、課題解決や事故・不祥事の根絶に向け、実効ある取組をお願いします。

総務社会教育課だより

1　第１回地域家庭教育推進会津ブロック会議

(1) 日時　平成２６年６月１８日（水）
(2) 会場　ピカリンホール
(3) 内容　趣旨説明、グループ協議、全体会

□趣旨説明～「家庭教育応援プロジェクト」「ブロック会議」「親子の学び応援講座」について説明。昨年度のテーマ「ノーメディア」の取組を踏まえて「メディアコントロール」に焦点化して取り組むこととする。
□グループ協議～「メディアコントロールの取組の現状と課題」について、ＰＴＡ代表、学校代表、企業・地域代表の３グループで話し合う。
□全体会～各グループの発表と「家庭でのメディアコントロールを効果的に推進するめために」という観点で話し合う。

趣旨説明を聞く参加者

グループ協議

七海　陽氏

真剣に耳を傾ける生徒

2　親子の学び応援講座

(1) 日時　平成２６年７月１３日（日）
(2) 会場　会津若松市立第二中学校体育館
(3) 内容　講演

□講演「ソーシャルメディアの光と影」
～私たちはどう向き合っていくべきか～
講師　相模女子大学・学芸学部・子ども教育学科
准教授　七海　陽（ななみ　よう）
・ソーシャルメディアの利用による生徒指導上の問題が増えてきている現状を踏まえて、メディアとどう付き合っていけばよいかについて話していただきました。
生徒、保護者、教職員が共に考えるよい機会になりました。
参加者　生徒３４６名　保護者７６名　教職員２５名　計４４７名

理科力アップ事業　授業改善研修会（理数教育充実事業）

福島県教育委員会では、「ふくしまから　はじめよう。未来を拓く理数教育充実事業」として、算数・数学、理科の指導で成果をあげている教員を「コアティーチャー」に任命し、福島県教育委員会が主催する各種行事や授業研究会を通して、本県の更なる理数教育充実に向けた実践活動を展開しています。

７月10日（木）には、理科の「コアティーチャー」である、会津若松市立第二中学校笹川光威教諭による「理科力アップ事業　授業改善研修会」を行いました。内容は「理科学習指導プラン」に基づいた授業で、中学２年生の「だ液」によるデンプンの分解実験でした。笹川教諭の丁寧でわかりやすい説明と、工夫を凝らした実験に真剣に取り組む生徒の表情が大変印象的でした。生徒は、デンプンが「だ液」により、「糖」に変わることを実験により確認し、人体の不思議な力を実感していました。また、参観した教員も、笹川教諭のレゴブロックと金網を使った実験や、人工透析用のチューブを活用した実験に感心するとともに、生徒の実態に合った教材開発の重要性を改めて認識していました。

当日は、域内の小・中学校及び高校から、14名の教員が参加し、研究協議会では、活発な意見の交換がなされました。参観者からは、「生徒一人一人が意見を出し合い、一生懸命考えていたのがすばらしかった。」「生徒が生き生きと実験に取り組んですばらしい授業でした。」等の感想がありました。今後も「コアティーチャー」の有効活用を図っていきます。

国際化社会の中での英語教育

猪苗代町教育委員会教育長　土屋　重憲

Hideyo Noguchi Born in Inawashiro Japan Died on the Gold Coast Africa Through Devotion to Science He lived and Died for Humanity（野口英世、日本の猪苗代に生まれ、アフリカの黄金海岸でその生涯を閉じた。科学への貢献を通して、人類のために生きそして死んだ）

ニューヨーク郊外ウッドローン墓地、博士の墓碑銘に刻まれている文である。（Gold Coast＜黄金海岸＞は英領植民地時代の呼名、ガーナ共和国を指す、博士は首都アクラの病院で黄熱病のため亡くなった）この８月より、猪苗代町はガーナ青年をＡＬＴとして採用した。

猪苗代町教育委員会では、文科省（県教委）から英語指導力向上事業の指定を受け、３年目に入った。CAN-DOリストという、場面設定に重点を置き、生徒・指導者双方の意欲的アプローチを可能にする評価基準の作成をメーンとした取組みで、昨年授業公開（於東中学校）等を行ったが好評だった。

この度のガーナ青年の招致については、ガーナ大使館から本県にガーナ・ユースのALT採用のオファーが入り、野口博士との縁から、猪苗代町でどうかという話が県から来た。

検討の結果、博士との絆、国際社会の進展も考慮し決定した。今でこそ、国際社会などと言われるが、博士はあの時代既に世界を舞台に活躍していた。猪苗代の教育の基本方針の一つは、国際社会で役立つ英語の基礎を身に付けさせる英語教育の充実である。

我がまちからの情報発信

会津坂下町教育委員会

会津坂下町の保幼小中一貫教育

会津坂下町では、足かけ13年間にも及んだ教育施設適正配置事業が昨年春に完了し、町内の学校教育施設は、幼稚園２園・小学校２校・中学校１校に再配置されました。この事業を進める中で、町としての学校教育に係る基本方針として、**Ⅰ．幼小中一貫の教育を指向する　Ⅱ．学校は、家庭・地域との連携による子育てを図る**、ことが定められました。この方針に基づき、今、幼小中５つの教育施設を一体的に捉えた『“一つの学園”構想』の下、「一貫性」「共通性」「継続性」をキーワードとした具現化に向けた取組みがスタートしています。具体的な取組みにあたっては、**１　基礎学力の定着・向上　２　望ましい生活習慣（４つの習慣）づくり　３　健康でたくましい心と体づくり**　といった３本の柱立てをし、柱ごとに具体的な取組内容を４項目ずつ設定しています。これらの取組内容は幼稚園から中学校に至るまで、それぞれの発達段階に応じ一貫した継続的な取組みができる内容となっています。

さらに、本町では２年前から幼保の年齢による区分けを行っており、幼保の円滑な接続・連携が大きな課題となりました。そこで昨年度、安心して子育てができる環境を整えるとともに、町として幼児教育の一貫性を図るため、就学前教育の指針として**「幼児教育振興ビジョン」**を策定しました。今年度は、この内容を町民へ周知するため、町内全戸に解説用リーフレットを配付しました。

こうした取組みにより、０歳児から中学校を卒業するまでの一貫した保育・教育を、町として責任をもって推進していく体制・基盤が整いつつあり、今後は、その取組みの成果が求められるところとなっています。

「一つの学園」構想の具現化に向けた
“一貫性”“共通性”“継続性”ある取組みの柱

１　基礎学力の定着・向上
- ① 学ぶ楽しさを実感する「学びあう」授業の実践
- ② 特別支援教育の充実・強化
- ③ 教職員の指導力（授業力）向上
- ④ 「基礎学力向上推進会議」の機能化

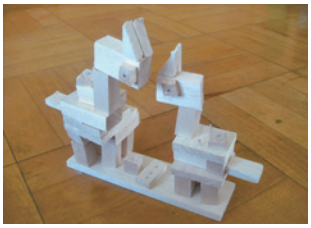
２　望ましい生活習慣（４つの習慣）づくり
- ① 規則正しい生活習慣づくり
- ② 家庭学習習慣づくり
- ③ 読書習慣づくり
- ④ あいさつ習慣づくり

３　健康でたくましい心と体づくり
- ① 道徳教育の充実
- ② 食育の充実
- ③ 体力づくり
- ④ 健康教育の充実

作品と指導

工作

『切って切って木の世界』



猪苗代町立猪苗代小学校
4年 **西牧 桃花**

木を切るのにのこぎりを使うのが初体験でした。切ってできた形を組み合わせ、釘などでつないで表現します。
互いに寄り添い語り合う馬の親子の様子がほのぼのと伝わってくる作品です。

指導者 野崎史雄

絵

『私の大切な物に感謝して』

会津美里町立新鶴中学校
2年 **武藤 昌大**

自分にとって大切な物をよく観察し、今の自分を作り育ててくれた人やものに感謝しながら、心を込めて描きました。画面構成や線の強弱、透明水彩の技法で陰影やタッチを工夫し、立体感や質感を表現しました。

指導者 鈴木智子

習字

『絶景』

西会津町立西会津中学校
市橋 明香里

行書の特徴である、点画の丸みや次画に向かって連続することを意識しながら練習しました。
文字を正しく整えながら、丁寧に心を込めて書くことができました。

指導者 博多弘泰

私の抱負

「たくましい子」に

喜多方市立
熊倉小学校
校長
渡部 良一

新任校長として熊倉小に赴任して四ヶ月、大きな問題もなく一学期が、そして夏休みが終わろうとしている。
ここ熊倉地区は、旧米沢街道の宿場町として栄え、今も街並みや旧跡等に往時の面影が残っている。併せて、地域の人々の絆もかたく、学校にも大変協力的である。
子ども達は現在七五名と少数ではあるが、「いい子」ぞろいである。ここに「たくましさ」が伴えば、より大きな力が発揮できると思う。
「自分の力で、できるまで頑張る」「相手や周りの気持ちを考え、がまんする」等、そういう場面を多く設定することに取り組んでいる。これは、まさに喜多方市人づくりの指針「なかよくたくましく生きる」の具現でもある。

新しい自分を創る

福島県
会津自然の家
社会教育主事
五十嵐真由美

会津自然の家には、野口博士の生涯にちなんだ二十五種目のアスレチックがあります。どれも博士の生涯のようにクリアするのは難しいのですが、訪れた子どもたちには解決方法を明示しません。しばらく観察していると、子どもたちの間から様々なアイディアが飛び出します。失敗しながらも全ての困難をクリアし、ゴールした時の歓声は、彼らにとっても私にとっても何事にも代えがたい感動を覚えます。
社会教育施設は、子どもたちだけでなく、地域コミュニティの活性化としての役割も担っています。自然体験とそれに伴う人と人との交流を通して、一人一人が自分らしさに気づき、新しい自分を創ることができるようサポートしていきたいと思います。

地域から愛されて

福島県立
川口高等学校
教諭
佐久間矩子

四月一日に、新採用教諭として、福島県立川口高校に着任しました。
着任してすぐ、二・三年生がそろった一学期の始業式で初めて聞いた校歌の歌声は、少人数ながらも一人一人がしっかりと声を出しており、本当に素晴らしいものでした。そして、その歌声は一年生にもしっかりと継承されています。川高生は、挨拶も素晴らしく、「お疲れ様でした！」と元気よく挨拶してくれます。
また、川高は地域に密着した取り組みを多数行っていますが、あらゆる場面で、地域の皆さんから大きな愛情と励ましを頂いています。川高生を愛し、育てて下さる地域の皆さんに少しでも貢献できるように、私も生徒たちと一緒に日々成長したいと思います。